



破られた

二千年の魔法

二千年の神隠しは二千年の悲劇であった

哲学博士 山本健造 監修

山本貴美子 著

福来出版

目次

序章

- 日本列島ができる 3
飛驒の福地に日本で一番古い化石が出る 3
石冠を持って降る 4
御物石を持って降る 4

一章 出雲の大陸文明とその残虐性

- 出雲といえは国譲り 11
『日本書紀』には 11
『記紀』は史実がはぐらかされている 12
国を譲った安すぎる条件 12
古代史にかけられた魔法 14
出雲の社 15
『日本書紀』と符号が合う出雲大社の由緒 15
日本の中央 飛驒に残る”言い伝え” 16
出雲の意字は飛驒の分家 16

- 日抱きが飛驒の地名に 5
外国の荒っぽい人々が来る 5
地球規模の寒冷化する 6
『記紀』にはウソが書いてある 7

- 三代にわたる四重の政略結婚 17
出雲は国防の最重要の地 17
隠し通されたホヒの死を語る「神事」 18
ホヒは煮て食べられた？ まさか？ 19
遺骸を見られないよう、どぶ池に捨てた？ 20
大罪人の葬式のごとし 22
ホヒ殺しと食人をひた隠しに隠したと推定 22
これは大陸的やりかたである 23
大魔法の元凶 23

オオクニヌシは大陸に憧れたと推定	24
オオクニヌシは新羅に行っていた？	25
オオクニヌシの朝鮮の子出雲に来る	25
出雲で大陸札贖大ブーム起こる	26
英雄イソタケル	27
今なお残る「出雲トウジン」	28
出雲でシラギ神崇拝教、興る	28
出雲大社の前身は曾の宮	29
シラギ崇拝教から出雲教に変える	29
シラギ神を誰に替えるか？	30

二章 魔法が二重にかけられた古代史

驚き！ 大和一の宮の最初の祭神は外人	39
古代史の謎	41
現在の三輪の社の不思議な祭神	41
三輪の社の少彦名神は外人	43
通訳の外人・クエヒコも三輪山に祀られている	44
大和の御諸山はニギハヤヒの山	44
淫乱で国を譲った男は神の資格なし	45

淫乱を縁結び神に変身	30
「国を譲らされて幽閉」をどう繕うか	31
オオクニヌシの悪評・修繕会議（筆者推定）	31
大魔法 神主家がホヒの子孫	32
なぜ ホヒを表に出したか？	33
『出雲大社由緒略記』にある系図	34
曾の宮から出雲大社へ	35
日本全国に出雲神	35
出雲神を古神道と思ひ込む	36

一大事！ 天皇のそばから「八咫鏡」が離れる	47
最初からしかけられた罠	47
隠されたニギハヤヒ	48
ニギハヤヒを隠す巧妙なウソ	49
『日本書紀』と天理市史が一致、これが魔法	50
大和神社は何の目的で、誰が造ったのか	50
三輪山に大田タネコ大物主を祀り疫病収まる	51

モモノ姫箸で墮胎？衝撃の死	52
三輪山頂で新羅を拜んだ	52
大陸の進んだ酒造り	53
大田タネコは何者か？	54
タネコは出雲の男でもある	54
大田タネコの企み	55
皇位を奪う下心、国譲りの仕返し	55
ごまかし、ごまかし二千年	56
再度 大和神社	56
三輪山をなぜ取り返さぬ	57
墓の名と埋葬者がねじれた「箸墓」古墳	58
タネコの手口が逆さに	59
残されていない大和朝廷建設前後の歴史	60
『記紀』に見るジンム大和入り	60
『記紀』は本質が欠如	62
飛驒に伝える歴史物語	62
『飛驒の口碑』と『日本書紀』と	
どちらが正しいか？	
『飛驒の口碑』が『日本書紀』より正しかった	64
飛驒の口碑の所々を抜書きしたような『記紀』	66

飛驒王朝はサヌにスメラ命を授ける	66
サヌ（ジンム）は橿原で即位	67
飛驒の匠・糠塚喜一郎氏 笏木を謹製	67
位山に飛驒王朝最後のスメラ命のサヌを祀る	68
飛驒には歴史の裏の裏まで伝えている	76
大和は都	76
文明が出雲からもたらされる？	77
大陸文明と抱き合わせたシラギ崇拜教	78
シラギ神が種をまいたから日本の山に木がある	78
シラギ神は日本の氏神より偉いことになる	79
『古事記』に書かれた外国の神	80
『古事記』の編集の順序	81
『古事記』は魔法にかけている	82
二重、三重にごまかしている	83
『古事記』は意識的に魔法をかけている	84
『古事記』はわざとはぐらかしてある	85
『古事記』は大年神とオオクニヌシが	
詳しく書かれている	
推察が当たっていれば	
日枝（山王）の祭神はシラギ神	86

見え透いたウソ	86
大田タネコの祀った神はイソタケル	87
天照大神を奉ずる人々シラギ崇拝教と対立	88
「イソタケルが木の種まく」なんて信じない人々	88
シラギ神を拝まぬ者は人でなし	89
古神道とシラギ神崇拝教、天下分け目	90
出雲の仇のヒエッタ（飛驒）が賤民の代名詞に	91
賤民を作ったものは大陸思想	93
「八咫鏡」の安全な場所 大和になし	94
シラギ崇拝教 目指すは「八咫鏡」	94
皇女を守った人々 賤民にされる	95
出雲のシラギ崇拝教の勝利	95
神無月を疑問に思わぬほどにマヒした日本人	96
天皇も国内安定のためシラギ崇拝教を懐柔	96
皇后 進退窮まる	97
飛驒淡郷にいます神	98
戦勝のお札参りに飛驒に来る	99
武内宿禰と新羅征伐	100
懐柔の裏がすぐ来る	100
馬子天皇を殺す、大逆罪もお咎めなし	101

聖徳太子 仏教を入れる	101
蘇我蝦夷・入鹿は天皇きどり	102
蘇我一族の累代の野心	102
蘇我氏滅亡はシラギ崇拝教の滅亡	103
蘇我氏滅亡の予兆に天照大神現れる	104
ジトウ天皇伊勢参り	105
シラギ神も影うすく	106
三輪山には最初は	106
イソタケルとスクナヒコナが祀ってあった	106
シラギ崇拝教から出雲教へ変身会議（推定）	107
うまくオオクニヌシに移す	108
シラギ崇拝教義から出雲教義に	108
巧妙な修正	109
オオクニヌシの名の多きは、だましの手段	110
神名をスリ替える	111
煙幕に包まれた歴史	111
三輪のシラギ神とオオクニヌシは親子	112
三輪山の祭神をオオクニヌシに変える魔法	114
『古事記』より『日本書紀』は出雲偏り	114

出雲教の立場で

書かれたかときえ思う『日本書紀』 115

『古事記』も出雲教の影響を受けている 116

みんなが魔法にかかる 116

『日本書紀』の残虐・下品は 「日本の心」ではない 117

『日本書紀』は出雲教のデマ話 119

三章 日本の中心志向性と大陸の対立残虐文化

日本民族が生んだ古神道 131

自然環境に大きく影響を受けた人類 131

言語に現れている生活様式 132

日本では人類が人類らしく生き続けた 133

神通の体験 134

日抱きの御魂鎮め 134

飛驒の丹生川が中心地 135

日本の将来を見据えた 137

三人の大神通力の大人格者現れる 137

素朴な感謝の祈りから形式化して古神道 137

日本に生き埋めの残虐習慣などない 119

『日本書紀』にみる出雲教の企て 120

出雲教言い訳に転じる？ 122

出雲教になびかぬ人はヒエツタ 123

神事相撲で表した古神道の敗北 124

鶴よ永遠なれ 125

歴史を正し 名誉の回復を急げ 126

古神道の歴史の変遷を残す飛驒の阿多由太神社 138

天皇が続けておられる四方拝 142

古神道は現代科学に矛盾していない 142

日本中津々浦々に古神道が広がる 144

二千年の神隠し 144

真実は小説より奇なり 145

死後、生命はつづく 146

社の本当の祭神の御無念を思う 146

「二千年の神隠し」は「二千年の悲劇」 147

恐るべき大陸文明の残虐性 148

おおらかな日本神話	150
スサノオのオロチ退治のおはなし	151
忠・孝を表している	153
この差異は善悪以前の問題	153
大陸の厳しい自然環境が生んだ大陸思想	154
闘争に明け暮れた大陸は文明が進んだ	155
異文化がめずらしい日本	155

あとがき

日本古代正史をもとめて	160
山本は出雲の仕返しを早くから気付く	161
天孫が同和に落とされた、歴史の裏に気づく	162
山本はヤマト姫の受難を早い時期から推理する	163

日本人のかぶれ性は国を滅ぼす	156
日本の中心志向性と大陸の中心離反性	157
古神道の神は一体であり、大陸の神は対立	157
日本国家は一体 外国は対立	157
日本の心 武士道は中心志向性	158
同和の御先祖に一億総さんげを	159

弟子達に仕事を割り当てる	164
弟子を養成	165
弟子は研究を発展させよ	165
本業は福来心理学	166

もっと詳しく知りたい御方へ	168
著者 山本貴美子 紹介	170
監修者 哲学博士・山本健造 紹介	171

学術研究財団法人・飛騨福来心理学研究所案内	171
二一世紀の新医学のあり方	172
福来出版・図書案内	173

巻末